

# 官民で三方良し勉強会

## ODSCシート作成

新潟県魚沼地域整備部と県建設業協会魚沼支部青年部は2日、魚沼市の魚沼地域振興局で三方良しの公共事業改革についての研修会を共催し

とが、結果的に住民にも利益をもたらしていくことを確認した。

魚沼地域整備部の職員研修に合わせ同青年部が共催する形で開かれたもので、昨年に続いて2回目。約50人が参加した。最初に同部の瀬戸民枝計画調整課長が「三方良し」の概要を説明したあと、青年部主導でODSCシートを作成した。実際に発注された道路改良工事をモデルに、官民

共同参加で工事の目的や成功基準などを書き出し、目的では「見通し改善で交通事故を防止する」「社員と監督員の技術力向上」「工期を20%短縮し利益率をアップ」「監督員とコミュニケーションをとる」などが出された。



また、昨年度の研修でODSCを作った対象工事の検証結果も施工を担当した企業から報告され、工期短縮などの目的は達成できなかったものの、近隣住民の要望を踏まえて利便施設を設けた「ちょっと

とした気遣い」が評価され、「住民から10回以上ありがとうをいわれる」という目標はクリアしたことが紹介された。

瀬戸課長は研修を総括し、「われわれ（発注者）も施工者もこれまで、携わっている工事がなんのための工事なのかよく分かっていないところが少なからずあった。ODSCシートを両者が一緒に作ることが（三方良しの）スタートだ。もう1つの肝は受注者が工期短縮で利益を上げること。それによって県税収入も増え、住民にとっても早期に利便性を享受できる。強制はしないが、ぜひ企業は取り組んでみてほしい。われわれ（発注者）も指示待ち状態をつくらないようにしよう」と呼び掛けた。

